

奈良のむかしばなし

第73話

香具山、畝傍山、耳成山の大和三山が美しい山容を見せる橿原市。今回は市の北西部、曾我町に伝わる、心があったかくなるお話。

*

昔、昔、曾我の村に北林きたばやしという大きなお屋敷があった。そこに初孫が生まれて、旦那さんは大喜び。お祝いの赤飯を村中に配ったが、飯はまだお釜に残っていた。

その夜中、台所で何やら音がする。「もぐもぐ」。旦那さんがこっそり障子の隙間から覗くと、何と、二匹の親だぬきとたくさんの子だぬきが、赤飯をおいしそうに食べているではないか。

「あれ、お腹がすいとるのか。好きだけ食べたらええ」。それから、たぬきの親子のために毎晩ご馳走

たぬきの恩返し 文・山崎しげ子

を用意しておいた。

ある晩のこと。このお屋敷に包丁を持った泥棒が入った。「やいやい、金を出せ」。旦那さんが恐る恐る蔵の鍵を泥棒に渡そうとしたその時、「ドシッ、ドシッ」と大きな足音がして、二人の大男の力士が入ってきた。「こらーさっさと出て行かんと、捻りつぶすぞ」。さすがの泥棒も一目散に逃げ出した。

旦那さんが「おおきに、おおきに」といって深々と頭を下げている間に、二人の姿は消えていた。

その夜、旦那さんの夢にたぬきの夫婦が現れた。「いつもご馳走さんです。お陰で子どもたちはひもじい思いもせず育ちました。今夜はその恩返しができます」。「ああ、あの力士はお前たちやったんか」と、旦那さん。それから、たぬきが北林家の守り神になったそう。

*

さてさて、この北林家のある曾我町というところ。その名の通り、この周辺は古代の大豪族、蘇我氏が支

配し繁栄した地。

近くにある「宗我坐宗我都比古神社」は飛鳥時代に創建されたとされる蘇我氏ゆかりの古社。境内には万葉歌碑「真菅よし 宗我の河原に鳴く千鳥 間なしわが背子 わが恋ふらくは(巻十二・三〇八七番歌)」が。今も曾我町のすぐ西に、千鳥が恋しい人々を呼んで鳴くように曾我川が静かに流れている。



物語の舞台、曾我町

橿原市立真菅ますげ小学校西の国道24号バイパスを中心とする、曾我町中央部地下一帯には、古墳時代の曾我遺跡が眠っています。5世紀後半から6世紀前半にかけて、大和朝廷直属の玉類を作る基地だったことが昭和58年の発掘調査で分かっています。

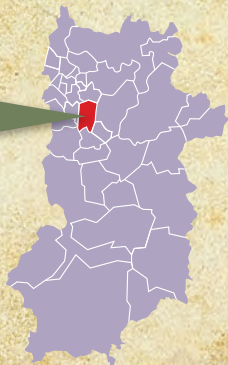
また、曾我町は古代豪族・蘇我氏の一族が住んだといわれ、集落の北西、曾我川の右岸には、蘇我氏の始祖を祀った宗我坐宗我都比古神社があります。



宗我坐宗我都比古神社

物語の場所を訪れよう

「宗我坐宗我都比古神社」(橿原市曾我町1196)
近鉄真菅駅南西へ約100m



橿原市観光政策課 ☎0744-21-1115